経済の豊かさと国民の豊かさ

細谷　和宏

いよいよ最後のレポートとなります。長い間大変お世話になりました。

このレポートは、総まとめとして今までお伝えした内容をこれだけはと思うことを簡潔に整理してみたいと思います。足りなかった部分で説明不足であったと感じた個所は加筆してお伝えしたいと思いますし、最後に私の中国についての総合的な感想を書かせていただき、本親善大使の任務を終了させていただくことといたします。いつも述べていることですが、本レポートもあくまですべて私の私見と又聞きであった部分も相当ありますので、中国を本当にお知りになりたい方はしっかりとした情報をあらためてお取りになってください。よろしくお願いいたします。

１　他国の人とのコミュニケーション

生まれて初めて何か月も日本人とまったく接しないで生活しました。過去にここ山西大学へ留学した方は毎年必ず複数人日本人がいたと聞いています。今回私の場合はまったく日本人いませんでした。加えて、昨年まで事務方に日本語が分かる中国人スタッフがいて、この方が日本人の特に埼玉県の関係者のお世話をしてくださったと聞いていますが、この方が昨年の８月に移動となり、日本語が分かるスタッフもいなくなりました。日本人とまったく接しない生活のスタートでした。

とにかく、部屋に案内されても食堂がない、飲む水がない、授業がいつからどこで始まるのか分からない、シャワー室が分からないなどなど、すべての生活が分からないのです。誰に何を聞いても理解されず、まずはとにかく飲み水を確保しなければと中国語しか分からない管理人（この人は留学生の世話をする人ではなく、寮のメンテナンスなどをする人で一切留学生にかまわない）にジェスチャーとお金を見せ水が買える場所を聞き出し、その夜は水だけで過ごしました。これからいったいどんな生活が待っているのかと温室育ちの私は期待より悲しさが先に立ちました。少なくとも中国語初学者がいきなり留学をすること自体間違っていたのだと深い反省の念で布団のないベッドに衣類を着込み初日の夜を過ごしました。

長期海外留学生活のスタートとして、外国人とコミュニケーションをとるために私が最低このことだけは徹底しようと日ごろ考えていたことを紹介します。

（１）　理解できるまで聞き返す勇気をもつ

実は、中国語は日本人なら、ある程度の構文の理解があれば筆談でなんとなく理解してもらえます。私を我ということなどを理解したうえで、例

えば列車のチケットを買うときに、太原の発音が分からなくても「我　一人　北京→太原」と書けば北京から太原に行きたいのだと分かってくれます。

中国語はこのようになんとか重要なことを含めて筆談に頼れましたが、むしろ困ったのが日常生活でコミュニケーションをとる言語が英語だったことです。友だちとの会話、事務手続きの話などすべてです。前にも書きましたが、私は一生懸命英語で話してくれる友達の話の腰を折りたくなくてついつい半分くらいその趣旨を理解したら分かったふりをしてしまうくせがありました。話が最終的に理解できていなかったことが実はたくさんありました。会話は事務手続きではないので、連続したコミュニケーションです。今終わった会話が次の話題の前提になります。こんなことではいけないと、最近は話の腰をいったん折っても、何度も理解できるまでみんなのなかに話を割って入り聞き返すことを心がけました。

（２）　照れずに話し、自分の意見は中途半端にしない

日本人は、完璧な文法の理解がないとなかなか会話しない傾向があると思うのですが、照れずに自分が知っている単語をなんでも言ってみるといいと思うのです。間違って伝わっていると思ったら別の言い回しを工夫すればなんとかなることも多いようです。そして、何より肝心なのは、理解していないことを中途半端にしないことです。中途半端にしておざなりにしていると次の話題についていけません。そうすると黙って理解できる部分まで黙り込むとこの人は自分の意見を述べない人なんだと友だちに感じさせてしまい、この人には意見を求めないで聞き役に徹してもらった方がいいと感じさせてしまい、その場にいなくてもいい人になってしまうので、自分の意見を中途半端にせずにはっきり理解されるまで伝えることが肝心だと思います。

私はあまり英語が理解できないんだと周りの友だちに最近では分かってもらっているのと同時に、それをカバーするためにわざとトリッキーなジェスチャーをしたり、自分で勉強している英会話の教材の言い回しをわざとどんどん多用して、それが返ってみんなの冗談の会話の一部に受け入れられています。そんななか、私はおもしろい日本人だとみんなに受け入れてもらって、いつでもどこに行くにも誘ってもらえるようになりました。

（３）　語学習得に思うこと

黙ってひとりで静かに文法を部屋で勉強することももちろん重要です。このことを否定するわけでもなんでもないのですが、私は語学を習得するのにはその国の人とのコミュニケーションがやっぱり重要だと思うのです。私は中国語初学者です。でも、もちろん経済の話や世界情勢の話は中国語でできませんが、ある程度の日常のコミュニケーションはできるようになりました。自分

がなんとかわかってもらおうとすれば、そこそこの内容まで理解してもらえると思います。その一方、英語を勉強したのは過去に１０年以上ありますが日常会話が困難です。８か月と１０年の差はどこにあるのか考えるとそれは生の会話、コミュニケーションのなかにいるかいないかの差だと思うのです。もし、私が日本で８か月中国語を学んだとしても中国人と会話はできなかったと思います。中国人の気質を理解し、激しく言い合う様は彼らは怒っているのではなく、そのように会話を進めていく中国独特の会話方法なんだと理解できたのも中国語を話す国で中国語を学んでいるからです。

　　余談ですが、今後私はもっと英語を勉強し直さなければならないとの衝動に駆られているのですが、その際はやっぱり母国語が英語である国に行って勉強しようと思います。偏見ですが、近いからといって韓国やタイで英語を学んでも上達は遅いように思うのです。それを選択するなら日本で学ぶのと大差ないのではないかと思うのです。もっとも、海外で勉強に励めば部屋に籠って勉強する時間が多く取れるというのはあるとは思いますが、日常でその国の母国語を話す国で勉強するに越したことはないと思います。看板やテレビもその国の言葉でつねに身近にあることが必須だと思うのです。

２　食べること

　たぶん中国に限らず、海外のどの国に行っても心がけようと思ったことですが、まずは生ものは食べないことです。どんな高級店へ行っても絶対に火の通ったものしか口にしないことを徹底しようと思いました。

　私は過去に上海方面に旅行したことがありますが、そのとき中途半端に火の通った卵を食べて４０度以上の高熱と物を口にすると一時間後に水の排便をする日々が一週間ほど続いたことがありました。完全な食中毒です。水も飲めないのです。本当に寝ているだけでした。体力のない老人や子供は生死に関わるような状況でした。そこで学んだことは、生ものや中途半端な半熟状態の食材などは絶対に食べないようにしようと思ったことです。今ではミネラルウォーターもいったん沸騰させてから飲んでいます。カットして売っている果物も私は避けています。どうしても食べたくなればスイカでも一個丸ごと買ってちゃんと洗った包丁で切って食べます。もちろん中国でも半分に切ったスイカは売っていますが、切った包丁に問題がある場合があると思うからです。

　中国ではできる限り集団での食卓を避ける。中国ではさい箸なしで自分が食べている箸を鍋に入れて食べる習慣があります。中国では肝炎の患者が日本と比較すると非常に多いとのことですので、そういった間接的な食材からの感染もあると聞いて以来そのような食事はしないことにしました。

　加えて日本から整腸剤を一瓶持参するいいと思います。無駄になったら儲けものと思い新しいもので信頼のおけるメーカーのものを薬剤師に相談されて買

って持参したらいいと思います。上記の事項を遵守すればある程度食中毒あるいはウイルス感染は回避できるはずですが、食品そのものの変化、慣れない食材摂取の連続とどうしても私たちのお腹が反応して摂食障害がでることがあります。決して菌とかの影響ではないのでしょうが、ずっと下痢が止まらないことも一度や二度ではありませんでした。そんなとき、整腸剤の出番なのです。ちょっとお腹がおかしいかなと思うときに脂っぽいものを避けると同時に二日間くらい整腸剤を飲みますと普通のお腹に戻ります。私は普段薬をほとんど飲まないのですが、この整腸剤で何度も助けられた。特に外食に頼ってしまう男性にはお勧めです。

最後に、できるだけ多くの食材を日本から持参することをお勧めします。ここ中国でも日本の食材は手に入ります。私も何度かそのような食材を買って食べたのですが、味が日本のものとはまったく違うのです。例えばふりかけを買いたべましたが甘いだけで食べられませんでした。

私は決して白いご飯とみそ汁がなければいられない人ではなく一年間白いご飯がなくても大丈夫ですが、前にも書いたとおり、パンも甘くて頼れないのです。何も食べるものがないときのために日本の味がする食材を渡航の際にバッグに余裕がある限り持参することをお勧めします。スポーツ選手が海外遠征するときにどうして日本食持参にこだわるのか理解できなかったのですが、純日本食に限らずシチューやカレーなどを含めて持参することをお勧めします。

３　体調管理

まずは渡航前提として予防接種をお勧めします。公共の病院ではＨＰで受付の方法など詳しく載っていますので確認して接種されるといいと思います。私はうっかりしていて渡航２か月くらい前に受ければいいかと思っていたら３か月後に二度目の接種が必要との種類の予防接種もあったため渡航が決まったら１年前くらい前から準備した方がいいと思います。その際、どの地域に渡航予定かも聞かれます。地域ごとに重要度の高い予防接種を教えてくれます。中国渡航では、日本脳炎、狂犬病、Ａ型、Ｂ型肝炎の予防接種を勧められました。ただし、予防接種は保険対象外なので、全部を受けると数万円はかかりますので覚悟してください。渡航への保険だと考えて受診されることをお勧めします。これが民間の総合病院では全部受けると１０万円以上はしたと記憶しています。

それと、日本から除菌用ハンドジェルを買い込み持参されることをお勧めします。出かけた際、食事をするときにサッと手に塗ってから食事をするとずいぶん違うのではないかと思います。できたらそれに加えマイ箸、マイスプーンの持参があればなおけっこうかと思います。

大気汚染の問題です。ここ太原市は比較的郊外でもあり、あまり深刻な大気汚染を感じることはありません。北京市が太原市の北東部にあり、太原では年

間を通して西寄りの風が吹くため北京市の深刻な大気汚染の影響はむしろ日本の九州地方の方が深刻かもしれません。それでも気になる方はマスクをつねにつけることをお勧めします。こちらでもマスクをしている人はかなり見かけますので決して違和感はないと思います。中国内陸部は一年中乾燥しているので防塵対策にもなります。また、喘息をお持ちの方はアレルギー反応がでやすい環境にあるのかもしれませんので、吸入器等の準備をお願いします。

乾燥と言えば、肌の乾燥は深刻です。特に冬場の乾燥は男の私も悩まされたくらいです。体中がかゆくなり、肌の弱いところは寝ている間に掻くのか一時布団が血だらけになったこともありました。女性の方は十分な保湿クリームを年中使用すると思ってもらって十分な準備をなさって来られるといいと思います。

４　交通事情について

レポートにも書かせていただきましたが（１２月分、１月分)、交通事情は正直日本よりかなり危険と言わざるを得ません。車、バイク、自転車、人の順に道路の交通優先順位があるようです。これは、あくまで実感としてであって、正式な法律でどうなっているのかはわかりませんが、街を歩いているとかなりのスリルを味わえます。百聞は一見に如かずですので、いくら書いても実体験されなければ伝わらないかもしれませんので、具体的な状況の紹介はここでは省かせていただきます。結論は、自分の身は自分で守ってくださいということです。

また、公共交通手段が以前紹介したとおり、テロのターゲットにされた時期があったようです。また、私がこちらにいる間にも太原市で共産党本部に爆弾テロがあり、死亡者がでています。だからと言って、特別太原市だけが狙われているわけではないでしょうが、確率的にかなり低いもののテロに巻き込まれる可能性はゼロではないということを認識しておいてほしいと思います。これは東京にいても過去に地下鉄サリン事件があったようにゼロではないのと同じだと思いますが。

５　観光について

お勧めスポットをいくつか紹介させていただきます。

（１）　九寨溝、黄龍

以前（４月）に紹介したとおり、九寨溝方面は私にとって一番のお勧めです。ただし、中国に長期滞在される方はなんとか自力でたどり着けると思いますが、日本から直接観光でこちらを目指すのであればやはりパックのツアーをお勧めします。前にも紹介しましたが、額ははるもののオンシーズンに来てください。ベストシーズンは夏ですが、こちらも観光シーズンとなり、中国人観光客が非常に多くなると聞いていますので、ちょっと

時期を外した９月下旬から１０月初頭がいいと思います。時期が合えば紅葉も見ごろとのことです。でも、この時期当地はかなり寒くなるので、相当の防寒対策を忘れないでください。なぜオンシーズンかと申しますと、雪解け水が十分に湖水になく、水がないさまをみることになるシーズンがあるからです。私が行った４月下旬も黄龍にはほとんど池に水がないばかりか滝もまったくありませんでした。ベストシーズンはやはり８月だと思います。今言ったとおり、中国でも一大観光ブームが訪れており今後もかなりの観光客がこのシーズンに訪れるはずです。

（２）　北京方面

やはり日本からは来やすさでは北京か上海ではないでしょうか。北京ではもちろん多くの世界遺産がありますが世界遺産でなくてもいいところがあるので紹介します。世界遺産はここで紹介するまでもないので省略させていただきます。

私のお勧めは、７９８芸術区です。北京の中心部からは若干離れるものの（北京空港に近い方にあります。）お勧めです。旧ソ連や東ドイツの援助によって１９５０年代に建設された７９８国営工場を再利用した一大芸術村です。イメージとして横浜赤レンガ倉庫が７９８個あると思っていただいても過言ではありません。大小の赤レンガの建物のなかにギャラリーやアトリエが立ち並び、ほとんどが無料で開放されています。一部の芸術品は販売もしています。中国近代芸術の集合場所みたいなところで個性あふれるアートが楽しめ、時の経つのを忘れてしまいます。陶芸品や昔の人民服を現代風にアレンジした生成りのジャケットやパンツなども販売しており、小物もほとんどが手作りの一品ものだったりとお土産探しにももってこいの場所です。世界遺産を回る合間にどうにか都合をつけて一日ゆっくりと時間を取ってぜひ訪れてください。外国人が多いのも目につきます。

私も友だちと再度訪れる予定を入れており、ここでギャラリーを開きたいと考えているところですが、外国人の出店はハードルが高いかもしれません。

（３）　少数民族の部落

紹介するなどとはとてもおこがましいですが、中国の外側に点在する少数民族の部落を訪れたらすばらしいと思います。実は私もまだ行けていないのです。行きたい、行きたいと計画したものの、留学生があまり気のりしてくれなくていないのでいまだ行けていません。内モンゴル自治区には中国人の友だちがそこの出身でぜひいっしょにといってくれているので７月に行ってこようと考えています。あとで述べますが、当自治区のオルドス市には別の意味で興味を惹かれるものがあります。

今はネットでいくらでも少数民族の情報が入手できるので、旅行上級者の方であれば、アクセスの便利な秘境を探していただき、ぜひ自分だけの旅行を計画されたらすばらしいと思います。

各地を旅して思ったことは、何度も言いますが、とにかく知っている単語を駆使して中国人と話すことが大切だと思いました。こちらが外国人であるのは一目で分かり、じろじろ観察されます。私は人から見られるのがとても苦手で緊張してしまいますが、昔の日本のように外国人が珍しくて見ているのだけで決して悪意はありません。思い切って話しかけてみるとだいたいの場合は、近くに寄ってきてくれて話したくてしょうがない様子で話にのってくれます。時には私たちを中心に人だかりができることもありました。何か困ったときはわざと大きな声で話すとそのことを知っている中国人が近くに寄ってきてくれて教えてくれたり、地元の人しか知らないお得なスポットが聞けたりもします。もちろんこういったコミュニケーションは中国語上達にも役に立つと思いますますので、どんどん怖がらずに中国人と話す勇気をもつといいと思いました。

６　中国経済の行方

中国はまさに今高度経済成長真っ盛りです。留学生はこの景気になんとかのってビッグビジネスにつなげたいと必死で中国語を勉強しています。しかしこの躍進的な経済成長はホンモノなのでしょうか。

広州に２００５年、東京ドーム１４個分のアミューズメント施設を併設した当時世界最大の新華南モールが完成しました。当時はドバイのそれがまだ存在しなかったので世界一の一大レジャーモールだったそうです。ところがそれから９年経ち、２０００以上あった店舗は現在９９パーセントが閉店し、界隈では工場も次々と閉鎖しているとのことです。河北省にも大規模工業都市を建設する予定であったところ、２９００億円投資して現在ペンディング状態とのことです。内モンゴル自治区オルドス市には、マカオやラスベガスのような噴水ショーをするような施設を建設し、その近隣に１５０棟の高層マンションが立ち並んでいるそうですが住人がおらず、中国一のゴーストタウンになっているそうです。１２大鬼城ということばが中国にはあります。今存在する１２のゴーストタウンを総称したことばだそうですが、実際には３０から５０は存在するだろうと言われています。

山西大学近隣でも、このビル作っているのかそれとも壊しているのかという中途で建設が中断されている高層ビルをいくつも見ますし、まさに大学の横に立つ３０階はあろうかという高層マンションにはまったく住人の姿を見ません。

経済学を専攻した者として、一党支配国家の経済成長を支える唯一の手段は公共投資による地域開発を停止せずに投資し続けていくことであることは常識

中の常識です。このことは中国でも例外ではありません。中国は高度成長をすでに３０年以上続けています。成長の原動力は自由に政府が決定できる不動産開発とそれに伴うインフラ整備投資です。これらの投資は、高度成長全体の約半分を占めていると言われています。一方、日本のバブル経済時の成長で不動産、インフラ投資に占める割合は約３０パーセントであったと言われています。約３０パーセントの日本でもバブルが弾けたのです。中国は全体の約半分。いざバブルが弾けたらダメージはどちらが大きいかは分かります。つまり、いったん不動産関連事業が仮にですが停止してしまったら、経済成長の約半分がなくなってしまうのです。もっといえば、不動産を支える産業も当然ながら不動産関連以外の産業にも相当数含まれているわけです。

北京の住宅価格は年収の５０年分と言われています。人間一人が５０年何も飲まず食わずで払い続けた額が一軒の住宅です。これは日本の５倍に相当します。これらの状況を冷静に見つめると、いったんこれらの経済戦略を調整せざるを得ない時期に迫られていると思うのです。日本のバブル崩壊を反面教師として、中央政府は構造改革を進めて、地方政府をもう少しコントロールして過剰投資を抑えていく方向に一刻も早く手を付ける時期にきていると思うのです。中国のバブル崩壊を避けるには、弾けさせる前にソフトライディングに向かう方向性を中央政府が見つけてあげるしかないのです。これらはまさに経済学専攻の者のもっとも基本的なテキストにある常識です。

ところがまさに今年から太原周辺でも地下鉄工事が国家プロジェクトとして始まりました。

ゴーストタウンの実態などどこまでの国民が知っているのでしょうか。

７　おわりに

この一年間で私が身につけたこと、上田知事からなんでもいい、何かをつかんできてくださいとのお言葉をいただいたが、私は何をつかんでこれたのか。中国語はおかげさまでなんとか自分の要求は伝えることができるレベルになった。もちろん、中国語の習得が留学の第一の目的であったことには違いないが、これだけでは何か不完全燃焼であったような気持ちになる。

昨年１１月、留学生６人で平遥に行った。そのころわれわれの中国語はまだあいさつ程度のレベルであった。列車のチケットを買うにも何度も説明しなおさなければ平遥行の切符すら満足に買えない状況であった。そんな６人が体当たりで英語も通じない中国人のなかへ飛び込んでいった。

まだ、夜が明けない５時に宿舎を出発し、なんとか太原駅までたどりつき列車に飛び乗った。席に乗り合わせた中国人の学生とわれわれが知っている中国語を駆使してなんとか会話をして大笑いしながら列車は平遥に向かった。

知らぬ間にわれわれの乗る車両は外人に興味を示した中国人で輪ができてい

た。必死に中国語を話して楽しんでいる仲間を見ていると、そうだ、私が何かつかみたいと思っていることはこれだと思った。ヨーロッパ、アメリカ大陸、アフリカ、アジアから集まる友だちの輪。これが私の求めていた何かだったんだと感じた。

笑いの耐えない車中でみんなの笑顔の横顔を見ていると、この先こんないい仲間ができるだろうか、この仲間を一生大切にしたいと思ったとき、人知れず涙があふれた。

最後の留学生のパーティーで私たちは固く誓った。これから何年経っても私たちは親友だ、そしてそれぞれいつかみんなの国に行こう、そして今と同じに楽しく話をしようと。私は２０２０年に東京でオリンピックがあることをみんなに伝え、私の家を開放するので絶対にみんなそのとき集まってくれと伝えた。

日中の関係が複雑さを増しているなか、今回の留学が許可されてから私は正直、いつ辞退する旨の電話をしようと考える日々が続いた。思うように中国語の自宅学習も進まないことも手伝って毎日悩んでいたことを思い出す。そして、本年の埼玉県からの留学生が私一人になったことを知らされ、さらに辞退したい気持ちは加速した。

神経質できわめて小心者のくせに意外と大胆なところもある私は、まっいいか、中国へ行けば行ったで何とかなるか、どうしようもなかったら何か理由をつけて埼玉県にお詫びをして帰国しようと、疑心暗鬼のまま出発の日を迎えたことは記憶に新しい。しかし、今ではこんなすばらしい機会を与えてくれた埼玉県国際課の皆さんに感謝の念でいっぱいだ。

日本はそろそろ経済大国の看板を下ろしてもいい時期がきたのではないかと思う。対外的な経済力より国民一人一人の心の豊かさを追求できる国造りを進めていきますと。人間が手を付けない自然を子孫に残し、日本全体で農薬を一切使用しない農業を推進し、本来の味がするおいしい野菜を毎日食べ、少額収入でもみんなで分けあって楽しく笑いの絶えないそんな国造りを目指しますと世界に宣言したらどうだろうか。

中国では超高度成長の陰で住み慣れた古い趣のある住宅がどんどん取り壊されている。少数民族居住地の観光地化なども問題となっている。老人が横断する道を大きな乗用車がクラクションを鳴らしスピードを増して走っていく。強そうな男性が人をかき分けて誰よりも先にバスに乗り込む。

私はこんな光景を見ていて、いつもやるせない気持ちになるのは、強くなること、経済力をつけることが本当に幸福への道なのか疑問に感ぜざるを得なかったからだ。３０年、４０年前の中国はみんな人民服を着て自転車に乗り仕事に向かう、そこでも笑い声が聞こえるそんな光景がどの都市でも見受けられ車もほとんどない、公害もない国であったと聞く。それが今では……。

奨学金だけでやってくる国々の留学生、でも誰にも負けない情熱で勉強に取り組む。何十冊とノートに漢字の書き取りをする。夜１０時の閉館まで図書館で勉強する日々。お金がなくて食事ができなくてビスケットだけをかじって過ごす女の子も決して笑いを絶やさない。私はそんな彼ら、彼女らといっしょに生活したこと、これが私のほこりだったのだ。

私は国が経済力をつけることと国民一人一人の幸福感を増すこととはイコールではないのではないかと思うのだ。イギリス、フランス、イタリア、スペイン、ポーランド、ハンガリー、アルメニア、モロッコ、カメルーン、ケニア、ガーナ、ウガンダ、アメリカ、バハマ、キューバ、ジャマイカ、韓国、モンゴル、インドの国々から集まった私の宝物、留学生仲間、本当に私を支えてくれてありがとう、心からお礼を言わせていただきます。

セミリタイアした状態の私は、この留学を体験してまた何か仕事をしようと思いました。でも、今度就く仕事は収入を目標とするのではなく、何か人の気持ちを豊にできる仕事、私に関わったことで少しでも幸福感を増したと感じていただける仕事、そんな仕事をしたいと思います。

最後になりましたが、上田知事にはこの機会を与えてくださって本当に感謝いたします。知事がおっしゃってくださった「何かつかんでくる」というミッションはなんとか達成できたと思います。形にはならない宝物を得ることができたのですから。それと、太原市でテロがあった際にも真っ先にメールをいただいて安否の確認など誰よりもこころを配っていただいた県国際課の藤田様（今春別のセクションへご栄転となりました）、ご後任の松井様には一方ならぬお世話をいただきありがとうございました。

それと、これだけは言わせてください。川越在住のＫＭさん、私の収入源である不動産の管理・運営、郵便物の整理、納税手続など日本で本来私がしなくてはならないことすべてを代行していただきました。ここに一年間の感謝の念をこめてお礼を言わせていただきます。本当にありがとうございました。

これで私の中国親善大使の任を降ろさせていただきます。ありがとうございました。